

今回は突如の会場変更で、ご迷惑を掛けました。会場は新町商店街に設置されている吹風舎という、公立大学の街角キャンパスで、こじんまりしていて、参加者からは、好評でした。

真鍋先生のお話は、第1回、2回で現代から古代へとたどった西洋美術史の後を受けて、土偶などの石器時代から、日本画の成立までを、大陸文化の影響が残る古い時代から、日本の風景を独自の方法で表現する日本美術の成立を一枚一枚のスライドを観ながら、確認していくというものでした。そうした中で、長谷川等伯の楓図と松林図を比較しながら、スポンサーに好感の持てる絵と自分の本当に書きたい絵とを描き分けていたのでは、という指摘は圧巻でした。

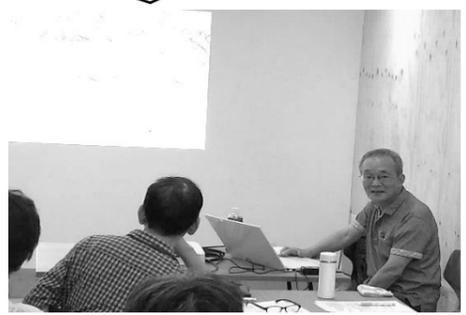
さいごに、謡曲の高砂が、高砂、鳴尾、住吉と船で入ってきたときの風景を謡ったものという由来とともに、真鍋宣先生ののども聴かせて頂きました。

少子高齢化になり、地域には高齢者が残り、将来的には高齢者同士が支え合いをしなければならなくなってきます。(中略)健康な人はより健康に、病気をもちながらでも地域で元気に過ごせるように、働きかけをしていますが、やはりコツコツと伝えていくことが大切なのだ実感しました。

運動が健康に良いことはわかります。が、一人では継続が難しい。かといってスポーツジムに行くのはお金がかかる。変形性膝関節症、頸椎症があってドクターから重いものは持ってはいけない、ダンベルはいけないと言われました。自分にあった運動がわからないでいます。高山先生に教わった運動はいくつか、毎日20分位ですが行っています。



お盆にもマケズ、暑さにもマケズ、会場変更にもマケズ!



大変興味深く、おもしろい講義でした。長谷川等伯の松林図は本当に好きで心ひかれるのですが、少し謎がとけた気がします。

これまで、あらきれい! あらステキ! としか見ていなかった作品の裏にある作者の人格や人生があってこそなのだ、お話を聞いて思いました。

歴史と美術作品のつながりが少しわかりました。長谷川等伯、数年前に作品展を観たのですがもう一度観たくなりました。

第4回 健康講座 — 生活習慣病の予防医学 8月24日/講師: 東照正 先生氏

講義のサブタイトルは「メタボからロコモ・サルコペニア・フレイルへ」。ロコモまではわかるけれど、「サルコペニア」「フレイル」は???。教室の中の何人かはご存知のようでした。「ロコモ」も比較的最近に聞くようになったと思いますが、健康寿命を保つために様々な対応、研究が進む中で、新しい言葉が出てくるのかなあと感じました。

健康な状態から、日常生活でサポートが必要になるまでの中間の状態が「フレイル」だそうです。「なにかおかしい(活力低下、慢性疾患、...)」この状態に早く気づき適切な支援を得る、要介護状態に移行しないように運動習慣を身につけることが大切、それを継続するにはやっぱり人とかかわりが重要のようです。

先生の日頃の運動の様子を動画で見せていただいたり(ジムへ行くとお金がかかるので、その辺にある机・棚・椅子を駆使してトレーニングされています。できるもんだ!)、生活の中で簡単にできる運動も実技入りで教えていただきました。最後に質問時間をたっぷりいただきましたが、30分の質問時間でも足らなかったようです。居残りで質問する人も。



北近畿校 通信

第8号 2018年9月 北近畿校運営委員会 事務局発行

秋の公開講座

夏バテ回復・気分転換に アンサンブルのつどい 心地よいメロディーと 楽しいトークで過ごすひとときを いかがですか?

10月14日開講 案内チラシをご覧ください。

昨年の公開講座でも大好評だった京都市交響楽団のメンバーによる演奏会。

高い演奏技術と興味深いトークで、元々音楽好きの方々からも、ほとんどクラシックに縁のなかった方々からも、「遠くへ行かなくても、たびたび、こういう機会がほしい」との声をたくさんいただきました。

今年も京響のメンバーに快く引き受けていただきました。この機会にぜひ、名曲に耳を傾けていただきたいと思います。

復習が大事!

今年度の各講座も8回の内4回が終了しました。アツという間ですね。

受講後の感想に、ただ受講して「面白かった」だけでなく、「帰って復習します」などの記述もたくさんあり、学ぶ意欲に敬服します。大事な時間とお金を使って来ているのですから、あやふやなままで終わるのはもったいないことです。忘れないうちに復習する、子どもの頃には口酸っぱく言われたことですが、いくつになっても大切です!

要望事項として ①お盆の開講は避けてほしい ②マイクの使い方のせいか聞き取りにくく残念、の声が届いています。①については次年度の検討課題、協議改善したい、②については今後も講師陣にお伝えしていきます。

新 運営委員さん募集中!

今年度も折り返しということで、運営委員会では来年度の講座の検討を始めていま

受講生特別割引 公開講座参加入場券を、受講生お一人様1枚に限り、前売り価格よりさらに200円引きで、各講座の受付で取り扱います。ご利用ください。 ◆ 前売り価格(一般1,500円)での枚数制限はありませんので、ご家族やお友達への普及に、ご協力よろしく願いいたします。

す。新しい講座を一つ増やす方向です。そこで、講座の運営のためにもう少し運営委員を増やしたいと考えています。「やってみよかな」とチラッとでも頭をよぎったアナタ! ぜひ運営委員(受付している人)に声をかけてください。

- 【運営委員の主な活動】 ・講座を1~2担当し、受付、司会、記録、等。 ・運営委員会(おおむね月1回)で課題の検討。 ・広報に努める など。

無報酬ですが、活動に必要な交通費などの実費は支給されます。そのほか、お気軽にお尋ねください。

8月の各講座の概要と、ひとこと感想から(感想は一部を抜粋したのもあります ご了承ください)

第4回 時事問題講座 —

21世紀のシルクロード現場からの報告

8月7日 / 講師：奥川櫻豊彦氏



中国深圳大学客員教授として教鞭をとり、社会学の研究者として活躍されている 奥川櫻豊彦先生の講義を受けました。

「シルクロード」と聞いて想像はしていましたが、やはり、中国の経済政策・一带一路のことでした。中国は 1980 年代の終わりにそれまでの国営企業 98% の計画経済から市場経済に移行。2015 年に AIIB(アジアインフラ投資銀行)を作り、インフラ建設やエネルギー資源開発にあて、現在アメリカ、台湾、日本などを除く 84 か国が加盟しているそうです。

一带一路とは、中国主導型の地域経済協力メカニズムで、新疆、中央アジア、中東、ヨーロッパなど陸路、海路の輸送路のことで、中国の習近平が進める国家プロジェクトです。取り残されていた中央アジアの開発途上国が国際経済に参加、インフラ整備により貿易、経済の自由化を進めています。

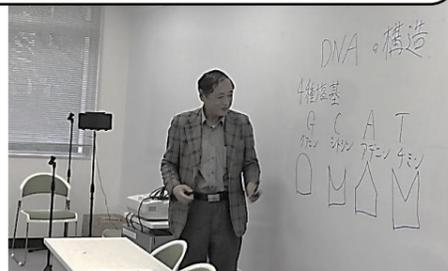
中国深圳のプロジェクト、一带一路の事業も日本人の感覚ではとらえきれないスケールと思います。13億の民の”しあわせ”を追及していくことは並大抵ではないのでは…。中国という国は分らないという言葉をよく聞きます。奥が深く興味が尽きない国です。

統制された情報ではなく現地で感じられた情報なので大変おもしろく聞かせてもらいました。

現代は世界のあらゆる状況がテレビなどを通して伝わってくる。すばらしいと同時に恐ろしくもある。一带一路も知った時には驚き感動した。これは昔のシルクロード現代版だと。

けれど今は大丈夫かなと思う。人類はどこまですすむのだろうか。伝染病は？ 世界の交流が盛んになると当然細菌も移動する。地球環境は？ 異常気象が増えている。一带一路のせいというわけではないが環境は破壊されるだろう。

まったく知識のない専門分野・専門用語の洪水でしたが、DNAから、実際の社会で応用されることの一部を学び、興味深い1クチャーでした。



はじめは、チンプンカンプンでしたが、イラスト入りで教えてもらって途中からよくわかるようになり、面白かった。

バイオ実験の経験がある者でないと、今日の話イメージするのが、難しいのではないかと。長浜バイオ大学が国庫補助を賞えないのに色々がんばっておられるのは良くわかりました。(現場の苦労?とかいったものか)

第4回 自然科学講座 —

無生物にも遺伝子検査？

これぞ究極の真贋判定

8月16日 / 大島惇氏

第1回の「バイオテクノロジー分野の歴史的発見及び発明」に続いての2回目の長浜バイオ大教授 大島惇先生の講義です。

今回は、タイトル「無生物から遺伝子検査？」そのものから？？？の連続。まずは一通り遺伝子・DNAとは何かを学び、DNAの構造を理解できました。

そのDNAの構造を利用した、無生物にDNAインクによるDNA情報の付与という全く新しい世界について学びました。無生物(例 時計や真珠)の真贋判定の手段としてDNAが利用可能であるそうです。実験室で行われるPCR技術やアガロース(寒天)電気泳動によるDNA確認など、さながら実験室を再現するような講演をいただきました。

時間とコスト問題を克服して、日本産真珠の真贋を見極める目を目の当たりになりたいものです。

第4回 歴史講座 —

内村鑑三「日清戦争の義」から「非戦論」へ

8月8日 / 講師：井口和起氏

今回の講座は、内村鑑三を通して、明治の人達の思いを見ようというものです。鑑三に限らず、明治の人達、とりわけ市井の人達は、外国に伍した国でありたいとの気概から、英語などは2年程でマスターしたということです。そしてこの英語力を駆使して、日本のことを外国に紹介したように、外へ出ようとしていたということです。

他方私見ですが、国家指導層は欧米諸国のグローバルリズムに呑み込まれる恐怖から(富国)強兵に走ったと思います。鑑三は非戦論者として知られていますが、日清戦争は正義の戦争であって、欲得のためではないと、ヨーロッパに向けて発しています。しかし、結果としてこの戦争で勝利した日本は、台湾を領土にし、賠償金をとり、隣人として近代化させる筈の朝鮮に対しては支配権を手に入れました。鑑三が日清戦争後の日本の墮落ぶりを憤っているのは、キリスト教徒としての生き様に反した国になろうとしていることに対してではないでしょうか。

鑑三が非戦論者になったのは、聖書、特に新約聖書によるところが大きいと、自身の著で述べています。この著の中で、キリスト教国であるアメリカが戦争によって世界に影響力を強めて以降としていることを見抜いているところは、世界全体の動きを見つめているもので、さすがだと思いました。鑑三の非戦に対する教えは聖書よりも、マサチューセッツ州で20年間愛読した、平和主義を訴えていた「スプリングフィールド共和新聞」によるところが大きかったかも知れません。この面からみると、権力と距離を置くマスコミの存在は、いつの世でも必要不可欠なものだということを感じました。また、社会主義者の非戦論とは一線を画していたことについては、もう少し時間があればと思いました。



今日は難しかったです。しかし、「義の為の戦争」非戦論等の考え方を外へ発信しているところに、現代人にはない逞しさ、純粋さがうかがえて、義士だなあと感じました。

毎回「難しいけど楽しい」が実感です。とりあえず内村鑑三のプロフィールを調べて少しその人となりを予習して…の毎回です。講義を終えてから、そこから又広がれば(自分の中で)いいと思っています。

内村鑑三の非戦論を読みながら、何か痛々しいものを感じました。明治という時代と同調するとき、人々の心の中におこった痛々しさの真髓のような気がしました。

いろいろなことをいっぱい教えていただいて少しパニックですが、資料をもう一度読んでみます。わかるかどうか、心配、心配…。

